

## 令和6年度第3回あきる野市自殺対策推進協議会 報告（概要）

- ・日 時： 令和6年10月24日（木）18時30分～19時30分
- ・場 所： あきる野市役所本庁舎5階504会議室

### 1 開 会

- ・あきる野市自殺対策推進協議会設置要綱第8条第3項の規定により本協議会が成立していることを報告

### 2 挨拶

- ・植田会長から挨拶

### 3 議 事

#### （1）次期計画の素案について【資料1】

- ・資料1を用いて事務局から説明した。

意見：統計学の領域でアンケートというのは任意で回答するものなので、有効回答率を一つの根拠となるので示した方がいいのではないか。

質問：新規事業というのが沢山出ているが、実際に新規事業を運営する市役所の人員数や時間的な余裕というはあるのか。

回答：新規事業については、既に実施している事業の中で自殺対策が展開できるのではないかとこの事業を、各課が挙げているかたちになっている。  
そのため、全く新しいものを一から始める事業ではなく、今ある基礎の事業を活用して自殺対策の推進を図るというイメージとなる。

意見：男性は社会貢献に自身が携わることにより満足感や生きがいを感じる傾向にあるため、シルバーやボランティアのような活動を取り入れてみた方がいいのではないか。

意見：自死遺族支援について、死別を問わないグリーフケアの会の中に自死遺族の方が入りやすい環境を作ることも市民活動を育成していく上では、非常に重要な観点だと思う。また、施策全体の中で市民の方が命を大事にする活動を育てるとか、そういった市民の方などの主体を育成して自治体とパートナーシップでやっていくようなものが計画の中で、出るような工夫をしてほしい。

※グリーフケア・・・死別などを経験した人が、その喪失を受け入れ再び人生を歩むための支援

意見：58 ページ自殺総合対策大綱の部分に策定年度を入れておいた方がよいではないか。

#### 4 その他

報告：学会発表にて、軽症、中程度、重度という3つのタイプに分けて心理的な分析を行い、軽症な人ほど悩むことがわかった。重症な人ほど自分の抱えているストレスや自己効力感みたいなものが低下している自覚がないという結果となった。

そのため、自覚のない人たちをどうやってスクリーニングしていくかが重要であり、抑うつに注目していけば、早期発見してケアサポートができるのではないかと感じた。

※スクリーニング…ふるい分けること